

地域の歴史や文化を記した
「白浜区誌」を発行

白浜区まちづくり委員会



ー白浜区まちづくり委員会ー

地域主体のまちづくりを進めるため、2000年に白浜区まちづくり委員会が発足。
右から増田恒次郎さん、齋藤持右衛門さん、齋藤博子さん、齋藤千穂乃さん、齋藤正敏さん、松井一代さん、八木一吉さん



「人々の記憶に残る白浜区の歴史を一つひとつ丁寧にたどった」

そう語るのは白浜区まちづくり委員会創設者の一人、増田恒次郎さん。同委員会は、約25年にわたり地域活動を実施。白浜区の歴史や文化を後世に伝えるため令和8年5月に「白浜区誌」を発行した。

地域の歴史を未来へつなぐ

同委員会は地区の将来像を「守る遺跡と育てる自然」、キャッチフレーズを「いけいけこいこい白浜区」と掲げ、白浜区の将来について会議や勉強会を実施。よりよいまちにするため、ウォーキングコースの設定や案内板の製作などさまざまな活動も実施した。その歩みを形として残し、次の世代へ受け継いでいくため、平成30年から区誌編さんを開始した。

次世代へ受け継ぐ一冊

制作で最も苦労したのは資料集めだった。地域の古老が少なくなり、薄れゆく記憶を一つひとつたどりながら話を聞き、資料だけでは分からない歴史を丁寧に集めた。その一方で、区誌づくりを通して白浜区の歴史や見どころに関心を持つ区民が増えたことは、大きな喜びだったと話す。

恒次郎さんが特に印象に残っている話するのは、ウォーキングコースの案内看板づくりのページだ。設置のために提供された板材に彫刻刀で文字を刻み、設置するための穴掘りまで約3カ月かけて全て手作業で完成させた。「みんなで力を合わせてつくり上げたことが、一番の思い出」と当時を振り返る。

完成した区誌を手にして、「地域の人には懐かしさを感じてもらい、若い世代には白浜を知るきっかけになってほしい。区民が区誌を読むことで、より良いまちづくりにつながるとうれしい」という思いを語る。地域の歴史や文化を未来へつないでいく一冊になることを願う。